

ネオリバー #1220



環境対応型、非ジクロロメタン系、浸漬用 粉体塗料の剥離に有効 (劇物に該当)

ネオリバー #1220 は、ほとんど全ての有機塗膜に対して効力があります。加温が必要な強アルカリ性水溶液タイプの剥離剤で、浸漬して使用します。粉体塗装用の治具の剥離に多く使用されています。

性 状 外 観	無色～淡黄色液体
臭 気	アミン臭
p H	12.9 (1%水溶液) [代表値]
比 重	1.3 (20℃) [代表値]
引 火 点	なし
金属腐食性	アルミニウムや亜鉛等の金属と反応し、水素ガスを発生する

剥離性能	有効塗膜	ほとんどの有機系塗膜、粉体塗膜
	参考剥離時間	60分～ (90℃加温) 塗膜厚みは標準 1 回塗り 多層塗膜の場合 (治具等) は 180 分～

塗膜の種類	塗膜厚	剥離時間
粉体塗膜 (ポリエステル)	約 200 μ m	30 分
粉体塗膜 (エポキシポリエステル)	約 1.5 mm	5 時間
	約 4.0 mm	12 時間
カチオン電着塗膜	約 30 μ m	50 分



三彩化工株式会社

<http://www.sansai.com>

ISO 9001・14001 認証取得

本社・工場

本社・工場 〒531-0076 大阪市北区大淀中 3-5-30
大阪(営) TEL 06-6451-7851(代) FAX 06-6451-1187
東京(営) TEL 047-455-3711(代) FAX 047-455-3722
名古屋(営) TEL 052-321-2051(代) FAX 052-322-3790
広島・福岡(駐) TEL 092-719-1756

ネオリバー #1220

使用方法

1. SDS を必ず読んでから作業をします。
2. 使用前に缶を軽く振り均一になるように攪拌します。
3. 剥離槽はステンレス (SUS304,316) 製が適しています。剥離槽内に籠 (バケツ) を用意し、この中に入れて作業をすると効率的です。
4. 剥離剤を容器 (剥離槽) に投入後、シールオイルを 3~5cm の層ができるよう注入します。目安は液表面積 1m² 当り 20~30L です。90℃までの加温ができます。
5. 完全に浸漬し、塗膜が軟化膨潤するか浮き上るのを確認してから引き上げます。
6. 槽から引き上げる時は、液切りを十分にします。圧力水などで塗膜を洗い流します。出来れば専用の水洗槽を設置して予備洗いをすると効率的です。
7. 再度浸漬して剥離する場合は、被剥離物の水分を出来るだけ取り除きます。必要以上に水分が入ると剥離能力が低下します。
8. 槽内に塗膜カスが増えると剥離能力が低下し、剥離剤の入れ替えが必要になります。定期的に塗膜カスを除去します。
9. 作業を行わない時は槽にフタをして蒸発を防ぎます。

作業上の注意事項

1. 消防法では危険物には該当しませんが、成分に有機溶剤が含まれるため取扱作業は火気厳禁です。また絶対に沸騰させない。
2. 有機溶剤を含有していますので使用に際しては風通しのよい場所か、十分な換気をする。
3. 剥離剤が皮膚、粘膜にふれないように、保護手袋、保護メガネを、有機溶剤を直接吸い込まないように、有機溶剤用ガスマスクなどの保護具を着用する。
4. 皮膚に付いた場合は直ちに大量の水で 15 分以上洗い流す。溶剤、シンナーを使用してはならない。痛みがある場合は医師の診察を受ける。
5. 目に入った場合、そのまま放置すると失明のおそれがあるので、こすらず流水で 15 分以上洗い流す。コンタクトレンズははずして洗眼する。痛みや異常を感じたら医師の診察を受ける。
6. 蒸気、ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は、新鮮な空気の場所で安静にします。意識がなくなる等重篤な場合は直ちに医師の診察を受ける。
7. ポリエチレン、ポリプロピレンを除くほとんどの樹脂、ゴムなどを変形、溶解させます。
8. 水洗時に回収された塗膜と水洗水は有資格産業廃棄物処理業者にて処理します。
9. 直射日光や高温のところに置かない、風通しの良い冷暗所に保管します。

荷 姿 20kg 18L アトロン缶
230kg 200L ドラム缶

適用法令及び詳細な注意事項につきましては SDS をご参照ください